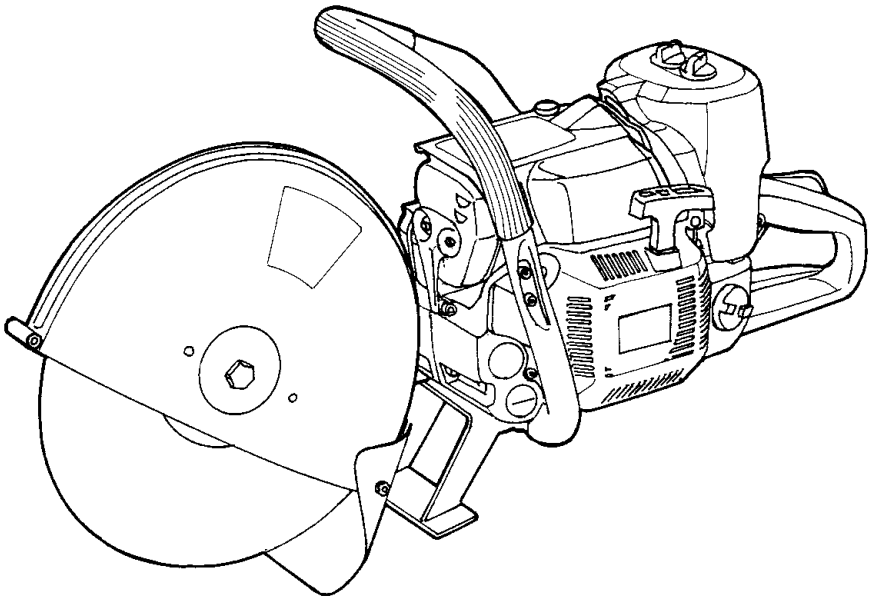
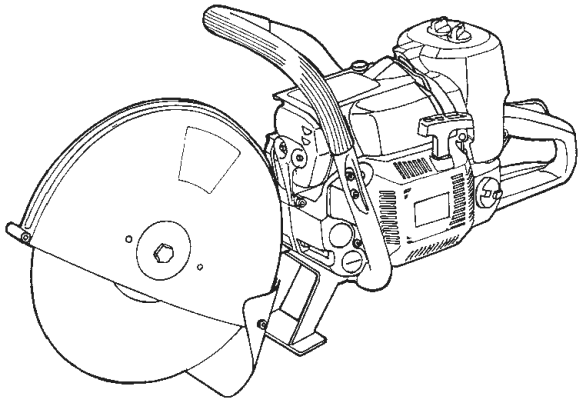
RYOBI®

エンジンカッタ

EC-305
取扱説明書



●改良のためお断りなく仕様、外観等を変更することがあります。



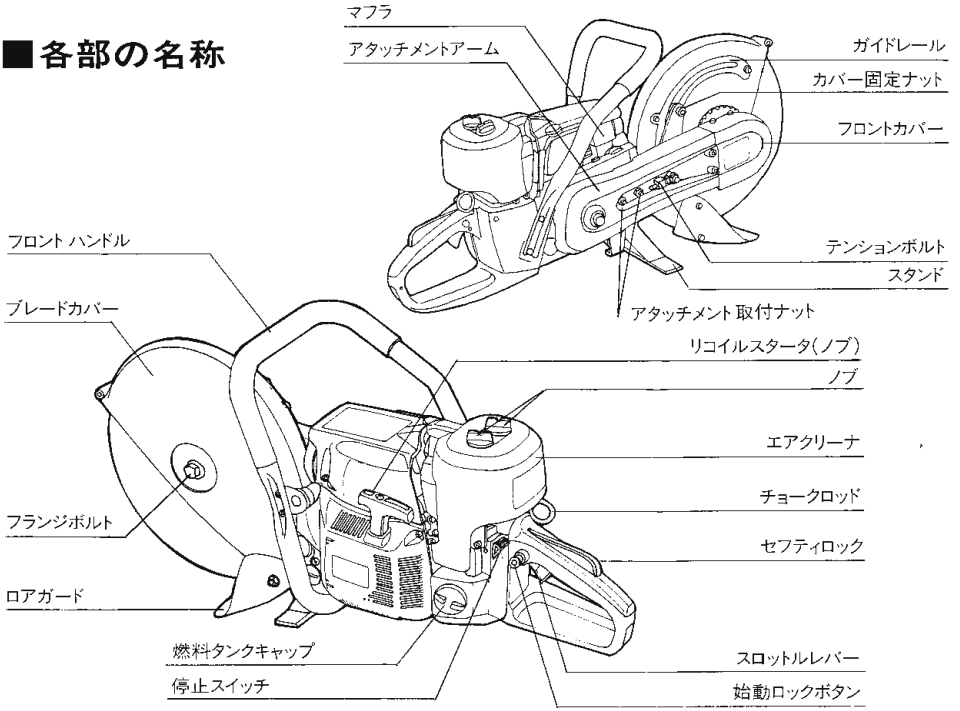
このたびはリョービ、エンジン カッタを お買い上げいた だき誠に有り難うございます。
お買い上げいただきました製品を、正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前には必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
また、大切に保管していただき、わからない時は繰り返しお読みいただき、安全に効率よく、末永くご利用いただきますよう、お願いいたします。
なお、製品についてのご不明な点やご質問等は、お買い求めの販売店もしくはリョービパワーツール取扱い販売店、または最寄りのリョービ販売株式会社の営業所まで、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

■ご使用に当たりましての注意事項

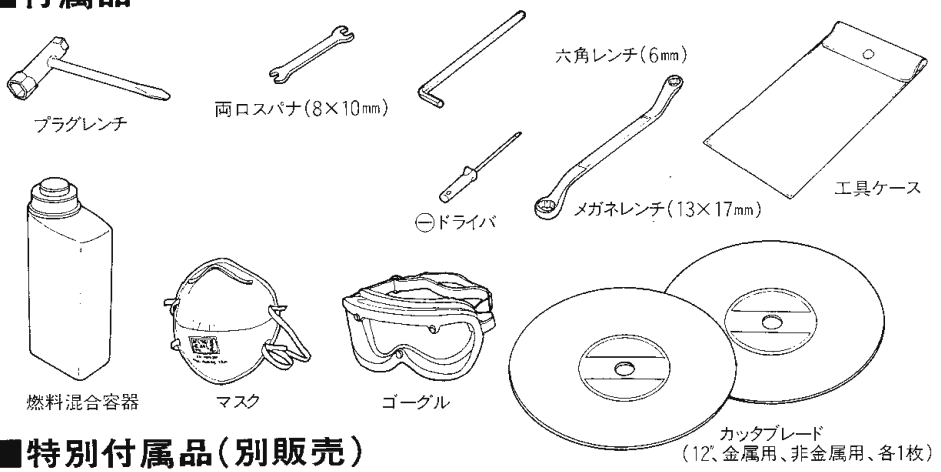
ご使用前には必ず取扱説明書を十分お読みいただき、指定された以外の用途にはお使いにならないで下さい。

- 作業時にはヘルメット、安全靴、防じんメガネ、防じんマスク、耳栓及び防振手袋等の保護具を着用し、安全に十分気をつけて下さい。
  作業時の服装は、ネクタイや袖口の開いた服装は避け(機械の可動部に巻き込まれる恐れのない服装)、作業に適した、肌の露出の少ない作業服を着用して下さい。
- カッタブレード(切断砥石)は、当社純正の専用ブレードを使用して下さい。
  市販の一般砥石を使用すると回転数等の違いから破損の恐れがあり危険です。
- カッタブレードは、切断する材料に合せたものを使用して下さい。
- カッタブレードは確実に取付けて下さい。
  また、取付けの際はカッタブレードをよく点検し、割れや欠けなどの異常が発見された場合はただちに正常なブレードと交換して下さい。
- お酒を飲まれた後や体調の悪いときは、ご使用を控えて下さい。
- 燃料は混合ガソリンを使用します。
- ガソリンと２サイクルエンジンオイルは、規定の比率で正しく混合されたものを使用して下さい。古い混合燃料は混合比が変わっていたり、ガソリンの成分が変質していたりすることがあります。
  新しい混合燃料を使用するようにして下さい。
- 給油の際は、引火の恐れのないように、焚き火などの周囲やくわえタバコでの給油は絶対にしないで下さい。
- 燃料補給時にこぼれた燃料は必ず拭き取って下さい。
- 始動は燃料のある場所や、燃料補給所から離れて行って下さい。
  周囲の安全を確かめて一人で行って下さい。また、換気の悪い場所では絶対に運転しないで下さい。
- エンジンの回転をあげると自動的にカッタブレードが動き始めます。
  エンジンの始動は正しい姿勢で、周囲の安全を確認してから行って下さい。
- 作業者の近くには人を近づけないで下さい。数人で作業をされる場合は、各作業者間の間隔を十分にとって下さい。また、絶対に刃先方向に人がいない状態で使用して下さい。
- 足場の悪い場所や上向きでの作業など、無理な姿勢での作業は大変危険です。
- 切断作業時は必ず機体を両手で保持して下さい。
- エンジンをかけたまま持ち運びをしないで下さい。
  また、エンジンがかかっているときは絶対にカッタブレードやベルトには触れないで下さい。大変危険です。カッタブレードの交換や、ベルトの張り調整は、必ずエンジンを止めてから行って下さい。
- 切断中はブレードに無理な力が加わるような使い方や、こじるような使い方は避けて下さい。
- 作業中に異常な音や、異常な振動が起きたときは、ただちにエンジンを止めカッタブレードやベルトなどを点検して下さい。
- 使用前や使用後は定期的に機械を点検し、異常が発見されたときは速やかにお買い求めの販売店、全国各地のリョービパワーツール取扱販売店、もしくは最寄りのリョービ販売㈱営業所にお問い合わせ下さい。

■各部の名称



■付属品



■特別付属品(別販売)

- カッタブレード (12″、金属用)
  φ305×φ22×t4.0㎜
- カッタブレード (12″、非金属用)
  φ305×φ22×t4.5㎜
- ダイヤモンドブレード (12″、コンクリート用)
  φ305×φ22×t2.5㎜

■仕様

エンジン形式	空冷2サイクルガソリンエンジン
排気量	62cc
気化器	ダイヤフラムキャブレタ
点火方式	CDI
点火プラグ	NGK BPM7A
燃料タンク容量	670mℓ(連続運転時間約20分)
使用燃料	2サイクルエンジンオイル混合ガソリン (混合比) 無鉛ガソリン「20～25」:2サイクルエンジンオイル「1」
動力伝達方式	自動遠心クラッチ
Vベルト	BANDO AUTO−FLEX 7M−800
ハンドル防振構造	6点支持ゴム防振
使用カッタブレード	金属用／レジノイドブレード12" (外径 φ305×内径 φ22×厚みt4mm) 非金属用／レジノイドブレード12" (外径 φ305×内径 φ22×厚みt4.5mm) コンクリート用(特別付属品・別販売) ／ダイヤモンドブレード12" (外径 φ305×内径 φ22×厚みt2.5mm)
ブレードの最高回転数及び周速	10" ……6200rpm(周速5000m/min) 12" ……6200rpm(周速6000m/min)
本体乾燥重量	11.0kg(カッタブレードを含まず)
外形寸法	全長740×幅250×高さ375mm (カッタブレードを含まず)

■カッタブレードの取付け

ブレードを取付けるときは、あらかじめ用途に合わせたブレードを取付けて下さい。

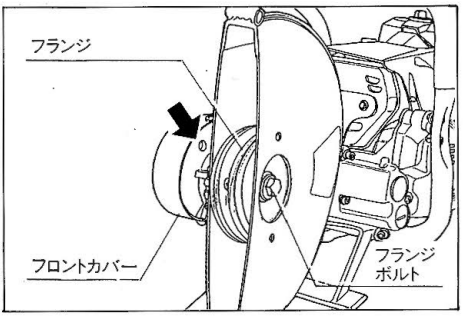
〈用途〉

- **金属用カッタブレード** ―― 一般鋼材、鋼管、サッシ、鋳鉄、ステンレス鋼、耐熱鋼の切断。
- **非金属用カッタブレード** ―― コンクリート、石材、陶磁器、レンガ、スレート、アルミ、砲金、鋳鉄管の切断。
- **ダイヤモンドブレード**(別販売)―― コンクリート二次製品の切断。

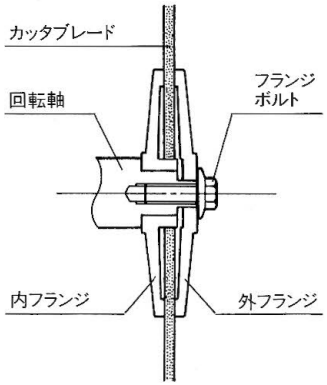
ご注意

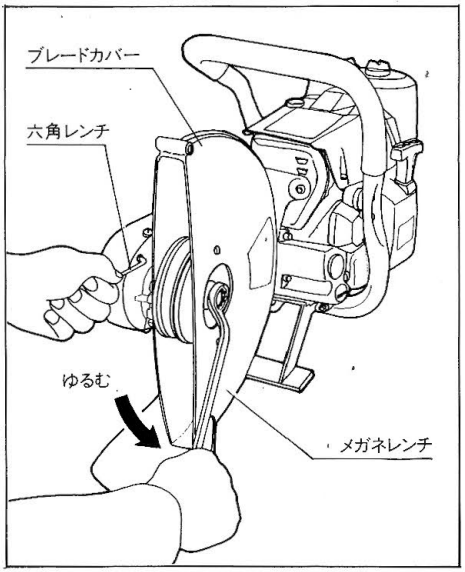
- カッタブレードを取付けられるときは、あらかじめカッターブレードに割れや欠けがないことを確認して下さい。
  割れや欠けがあるカッタブレードは危険ですから絶対に使わないで下さい。
  カッタブレードの中央部に貼りつけてあるラベルは、はがさないで下さい。
  カッタブレードを固定する際のあて板他として必要なものです。
- 純正品以外のカッタブレードは絶対に使用しないで下さい。

1)フロントカバーの内側のアタッチメントアームの上の穴に、付属の六角レンチ(6㎜・M8用)を差し込み、フランジを手で回して回転軸が固定できる位置を捜し、そのまま更に深く差し込んで回転軸をロックして下さい。
この状態でメガネレンチ(17㎜)を使い、外フランジを締付けているフランジボルトをゆるめ、外フランジを外して下さい。

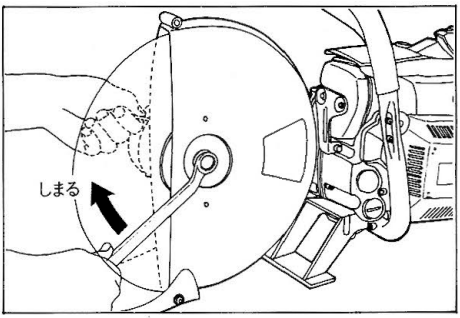


2)取付けるカッタブレードを点検したのちに、ブレードカバーの前側よりカッタブレードを入れます。
カッタブレードの中央の穴を確実に内フランジの座に合わせ、カッタブレードをセットして下さい。





3)確実に合ったことを確認してから外フランジを合せ、最後にフランジボルトで締付け、固定して下さい。
フランジボルトはメガネレンチを使って、確実に締付けて下さい。
固定ができたら、アタッチメントアームの穴に差し込んでいた六角レンチを外します。
手でカッタブレードの端をつかみ軽く回し、カッタブレードの回転に振れや、揺れがないことを確認して下さい。



振れや揺れがあるときは、カッタブレードが確実にフランジの座に入っていないか、フランジボルトの締付けがゆるいことが考えられます。

取付け状態を確認して、再度、確実に取付けて下さい。

ご注意

●フランジボルトは確実に締付けて下さい。
締付けがゆるいとカッタブレードが外れる恐れがあり大変危険です。

カッタブレードについて……

●カッタブレードの金属用、非金属用は、使用するにつれ摩耗し、外径が小さくなります。外径が新品時の2/3にまで小さくなったときは、寿命とお考えいただき、新しいカッタブレードと交換して下さい。

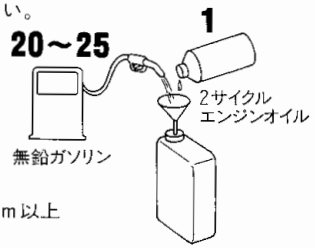
■燃料について

●引火の危険性がありますので、くわえタバコや焚き火の近くなどでの混合、給油の作業は絶対にしないで下さい。
また、給油時は必ずエンジンを止めて行って下さい。



●燃料を扱うときは、必ず風通しがよく十分換気ができる場所で行って下さい。

●燃料は、自動車用の無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)と2サイクルエンジンオイルを「20～25：1」の比率で混ぜ合わせた混合ガソリンを使用して下さい。
調合は付属の混合容器を使って、正しい比率で混合して下さい。



●混合ガソリン(燃料)は、1日の運転される時間に合せて混合して下さい。また、運転作業中は、燃料の保管に十分注意して下さい。
直射日光の当たる所や高温になる所は避けるとともに、火の気がなく、引火の心配が無いところへ保管して下さい。

●こぼれた燃料は完全に拭き取って下さい。

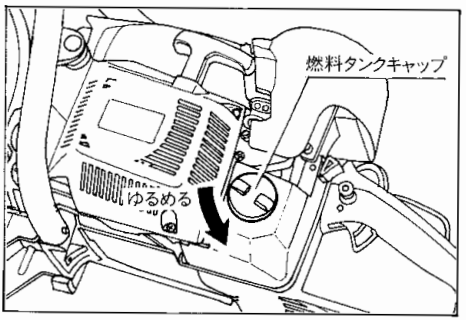
●エンジンを始動するときは、燃料を保管するところの風上で、3m以上離れて始動して下さい。

●燃料は、紫外線や高温に長時間さらされると、酸化が進んだり、気化により混合比が変化、キャブレタ等に悪影響を及ぼすなど、エンジン不調、始動不良の原因となることがあります。

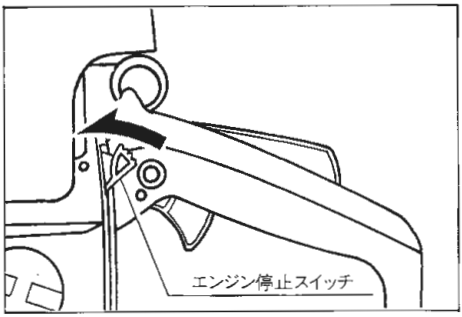
■エンジンの始動と停止

●始動

1)燃料タンクキャップが上になるように本体を横に寝かせて置きます。
燃料タンクキャップを回して外し、燃料タンク内に規定の混合燃料を入れます。このとき、ゴミなどが入らないように注意して下さい。
入れ終えたら燃料タンクキャップをしっかりと閉め、こぼれた燃料は必ず拭き取って下さい。



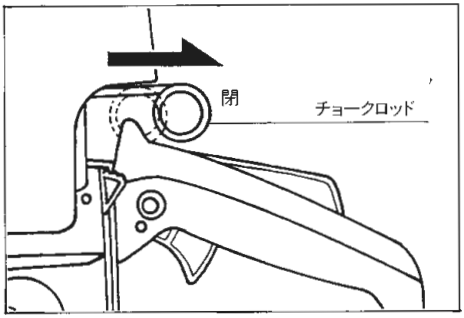
2)本体を起こして安定したところに置き、エンジン停止スイッチを上にあげて下さい。



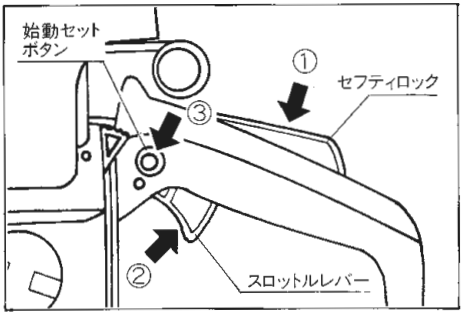
3)チョークロッドを手前に引き、始動時の位置(チョークを閉じる)にします。

ご注意

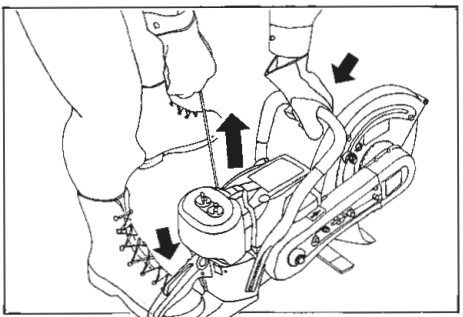
●エンジンの停止直後など、エンジンが熱いときはチョークを閉じる必要はありません。チョークロッドは入ったまま(運転時の位置)として下さい。



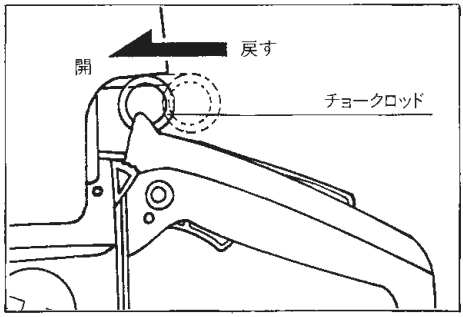
4)スロットルレバーをセットします。
ハンドル上面のセフティロックを押えたのちにスロットルレバーを握りながら始動セットボタンを押し込んで下さい。
つぎに、始動セットボタンを押えたままでスロットルレバーとセフティロックを放し、最後に始動セットボタンを押えている指を離して下さい。
(これで始動セットボタンは始動時の位置になりました)



5)フロントハンドルを片手でしっかりと押え、ハンドルも足で踏みつけるようにしっかりと押えて下さい。
周囲の安全を確認してから残った片手でリコイルスタータ(ノブ)を引いて下さい。
リコイルスタータは内部で爪が掛かるまではゆっくりと、爪が掛かり圧力を感じたところからは強く一気に引いて下さい。

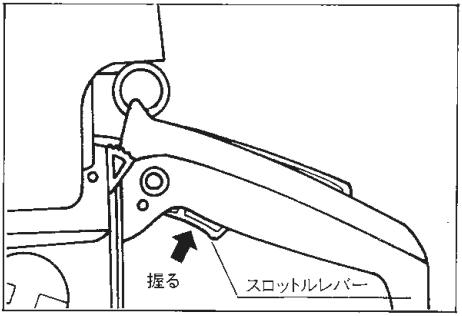


6)数回(早ければ2、3度)引くうちに、小さな音ですがエンジン内部での爆発音(初爆)が聞こえます。
この音を聞き逃さないように十分注意して下さい。
音が聞こえたら、チョークロッドを運転時の位置に戻し(チョークを開きます)、再びリコイルスタータを勢いよく一気に引くとエンジンがかかります。



ご注意
- エンジンがかかると同時にカッターブレードも回り始めます。
  始動時はカッタブレードの周囲に十分注意をして下さい。

7)エンジンがかかったらスロットルレバーを一度握り、始動セットボタンを解除し、すぐにスロットルレバーを放して低速運転(アイドリング)にして下さい。
このまま2～3分、低速で暖気運転を行って下さい。

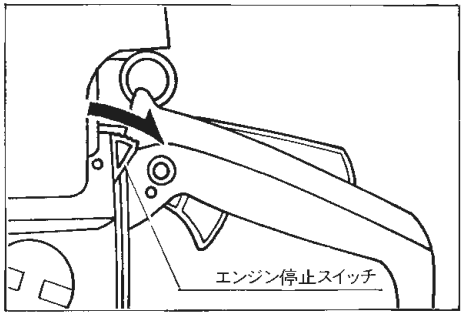


ご注意
- エンジンの保護のため、新品時は空吹かしをしないで下さい。

＊初爆に気付かずに、チョークロッドを引いたまま(始動時の状態にしたまま)リコイルスタータを何度も引き続けると、スパークプラグが濡れてエンジンがかからなくなることがあります。
このような場合は、スパークプラグを一度取り外し、先端の電極部を拭いてから元どおりに取付けて下さい。
チョークロッドを運転時の位置にしたまま(チョークを開いたまま)、リコイルスタータを数回繰り返し、勢いよく引いてエンジンを始動させます。
(スロットルレバーには触れないで操作。)

●停止

1)スロットルレバーから指を離し、しばらく低速(アイドリング)で運転を行い、一定温度にエンジンが冷えるのを待ちます。
2)エンジン停止スイッチを下にさげて、エンジンを停止させます。



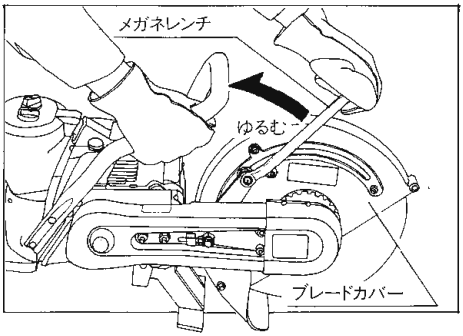
ご注意

- 緊急時はただちにエンジン停止スイッチを下げてエンジンを停止して下さい。
- エンジン停止直後はマフラやカッタブレードに素手でさわらないで下さい。
  高温のため火傷する恐れがあります。

■使用方法

●ブレードカバーの角度調整

- ブレードカバーは作業条件や作業姿勢に合わせて角度が変えられます。
  切断時に粉塵が後方に飛びにくい位置、使い易い位置にセットして下さい。

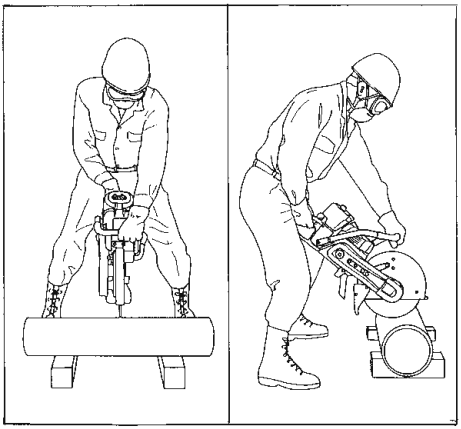


ご注意

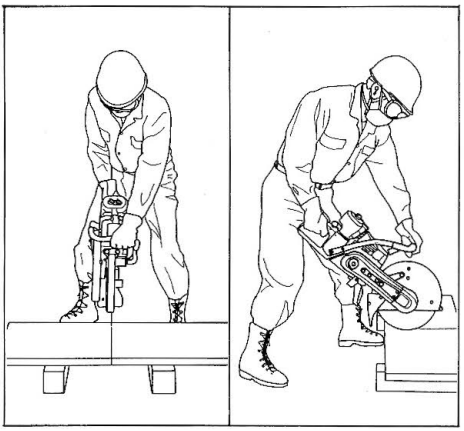
- ブレードカバーに触れる時は、必ずエンジンを停止させ、機体各部の温度が下がってから、手袋を着用して行って下さい。
- ブレードカバーを手で支えた後、メガネレンチでカバー固定ナットを回してゆるめ、任意の角度にブレードカバーを移動させます。
- 調整が済んだら、使用中にゆるむことが無いよう、確実にカバー固定ナットを締めつけて下さい。

●切断作業

- 鋳鉄管やダグタイル管などの金属材を切断する場合は、機体を体の中央で保持して、切断粉塵を両足の間に飛ばすようにします。
  切断中は膝を軽く曲げて、安定した姿勢を保って下さい。



●その他の材料を切断するときなどは、ハンドルを持った腕を腰でためるように保持すると、疲れが少なく安定した姿勢が保てます。



ご注意

●本機は切断以外の用途には使用しないで下さい。
特に面取り作業などは絶対に使用しないで下さい。

●カッタブレードに過大な負荷をかけ続けると切断効率が落ちるだけでなく、カッタブレードの消耗を早めたり、エンジンその他にも悪い影響を与えます。くれぐれもご注意下さい。

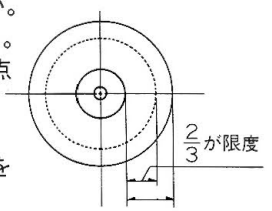
●切断材にカッタブレードをあてるときは、最初は静かに低速回転で位置を合せて切り溝を付けます。そのままスロットルを全開にして切断作業を進めます。
下に送る速度は、切り込む速さに合せて送りこんで下さい。

＊カッタブレードについて

●レジノイドブレード(切断砥石・金属用、非金属用)は湿気を嫌います。
使用中はもちろん、保管中も絶対に水をかけないで下さい。
保管は湿気の無い、衝撃のないところで保管して下さい。

●レジノイドブレードは、外径が新品時の2/3になった時点を目安に交換して下さい。

●別販売のダイヤモンドブレードはドライタイプです。
使用の際は、ときどき自然冷却をさせながら切断作業をして下さい。

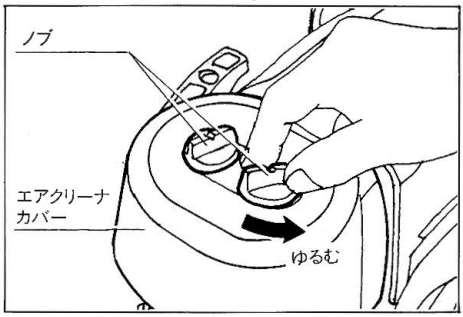


＊本機を長時間一定の調子で使用するためには、最低限度の整備は必要です。
特にエアクリーナの清掃は本機の調子を保つ最大の手入れです。
エアクリーナは一作業ごとに清掃し、20時間以上使用した場合は必ず交換して下さい。
また、点火プラグは40時間使用後に交換されることをおすすめします。

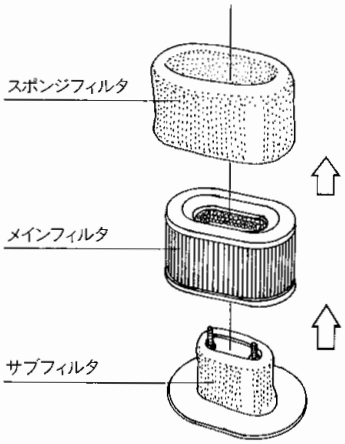
■点検と整備

●エアクリーナの清掃

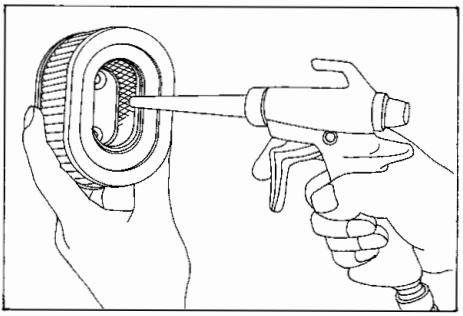
●エアクリーナカバーを止めているノブ2個をゆるめ、エアクリーナカバーを上に引き抜き、外して下さい。



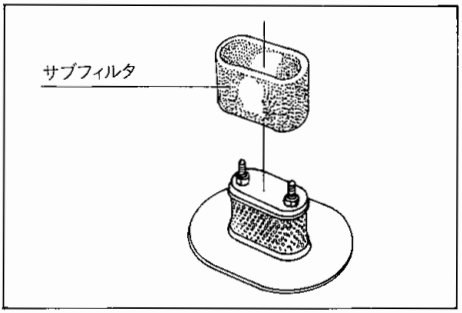
●スポンジフィルタが付いたままメインフィルタを上に引き抜き外します。
メインフィルタから外側のスポンジフィルタを取り外し、別々にします。



●メインフィルタの内側から、エアダスタなどを使い圧縮空気を吹き付けて外側に付いたホコリを吹き飛ばし清掃して下さい。
圧縮空気が用意できないときは、メインフィルタの縁を軽くコンクリートなどの固い面にあてて、外側に付いたホコリを落として下さい。
メインフィルタの内側にホコリが付着しないよう、注意して下さい。

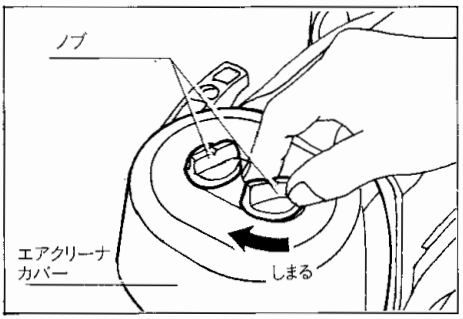


●スポンジフィルタは、ゴミを取り除いたあと燃料に使う混合ガソリンで軽く押し洗い洗浄をして下さい。
乾いたのちにメインフィルタに取付けて下さい。
●本機側に残っているスポンジのサブフィルタについても、汚れやホコリなどが付着しているときは取り外し、スポンジフィルタ同様に、新しい混合ガソリンで軽く押し洗い洗浄をして下さい。
十分乾かした後に、もとの位置に取付けて下さい。



ご注意
●メインフィルタは乾式ですから混合ガソリン等で濡らさないで下さい。
●エアフィルタは20時間使用ごとに新品と交換して下さい。
●発生粉塵が多い場合は、エンジン性能維持のため早めに新品と交換されることをおすすめします。

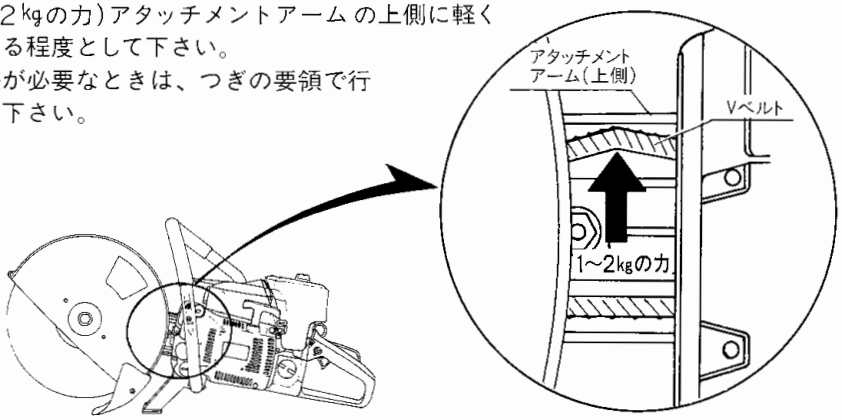
●フィルタを正しくセットした後にエアクリーナカバーを取付けて下さい。
フィルタの上の凹面と、エアクリーナカバーの内側の突起が正しく合うようにセットし、エアクリーナカバーを固定するノブをやや下に押えながら回し、締付け固定して下さい。



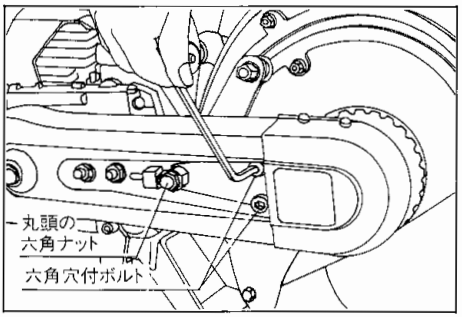
●Vベルトの張り調整

＊ベルトに触れるときは必ずエンジンは停止して行って下さい。

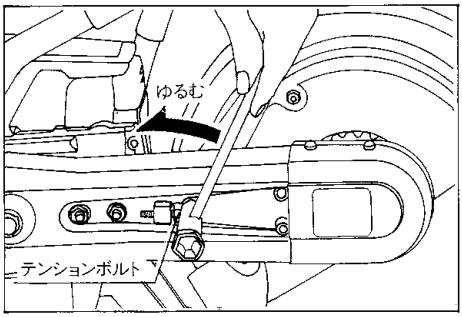
●適正なVベルトの張りは、図の位置でベルトを指で軽く引っ張ったとき(およそ1～2㎏の力)アタッチメントアームの上側に軽く触れる程度として下さい。
調整が必要なときは、つぎの要領で行って下さい。



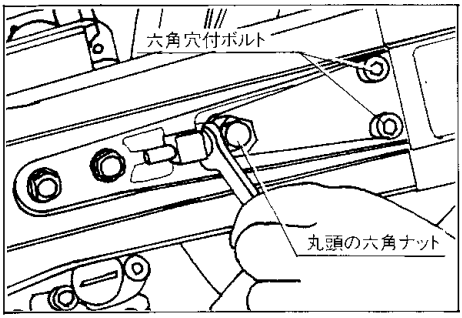
1)アタッチメントアーム先端の2個の六角穴付ボルトをゆるめます。
(六角レンチ6㎜を使用)



テンションボルトを受けている丸頭の六角ナットをゆるめます。



2)テンションボルトを両口スパナを使って回し、Vベルトの張り具合を見ます。
3)Vベルトの張り調整が済みましたら丸頭の六角ナットを締付け、つぎに2個の六角穴付ボルトを締付けて調整は終了です。

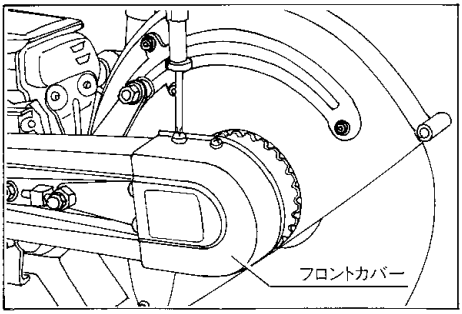


●Vベルトの交換

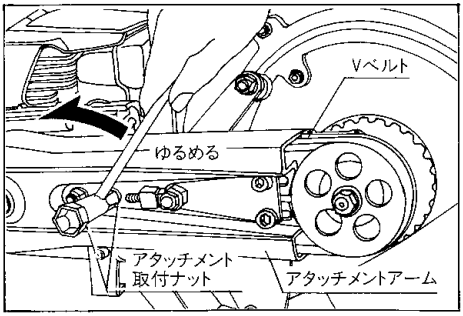
＊Vベルトに触れるときは必ずエンジンは停止して行って下さい。

● Vベルトに亀裂や損傷があるときは新品のVベルトに交換して下さい。
交換はつぎの要領で行います。

1)フロントカバーを止めているネジ4本(上側2ヶ所、下側2ヶ所)を＋ドライバを使って外し、フロントカバーを外します。



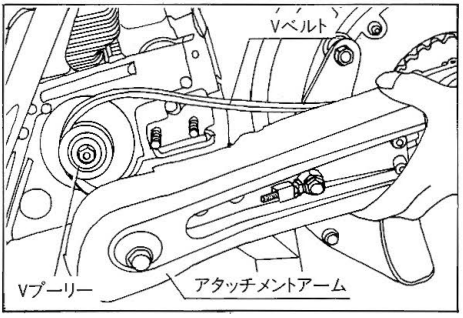
2)Vベルトの張りを一番ゆるい状態にするため、2個の六角穴付ボルトと丸頭の六角ナットをゆるめ、テンションボルトをゆるめます。
3)アタッチメントアーム取付ナット2個をプラグレンチを使って取り外し、アタッチメントアームを本体から取り外して下さい。
Vベルトも本体側プーリーから外します。



4)古くなったＶベルトをアタッチメントアームから取り除きます。
フロントカバー側のＶプーリーを一番先端に手で引き、移動させておくとＶベルトは簡単に外せます。

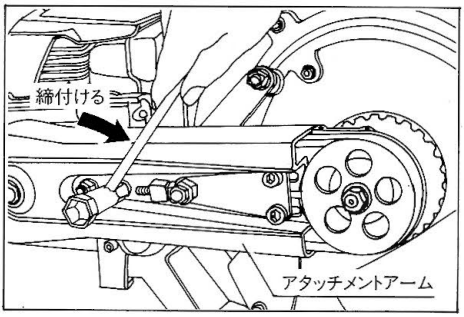
5)新しいＶベルトをアタッチメントアーム先端のＶプーリーに掛け、アタッチメントアームとのすき間からＶベルトを内側へ入れます。

6)本体側のＶプーリーにＶベルトを掛けるため、一度アタッチメントアームの先端のＶプーリーにかけたＶベルトを外します。
本体側のＶプーリーにＶベルトを掛け、アタッチメントアームを本体にセットします。
アタッチメントアーム取付ナットを締付けて、アタッチメントアームを固定して下さい。



7)アタッチメントアーム先端のＶプーリーにＶベルトを掛け、Ｖベルトの張り調整を行って下さい。

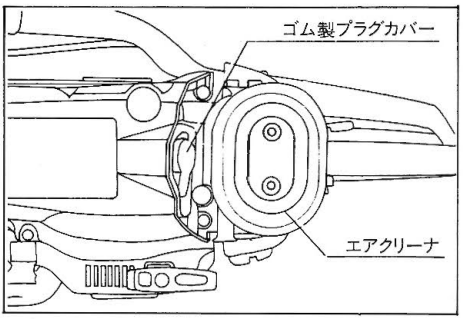
8)フロントカバーをアタッチメントアームの先端に取付けて下さい。
ネジが回転時の振動でゆるまないように、しっかりと締付けて下さい。



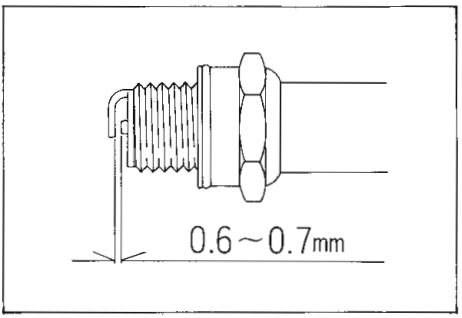
●点火プラグの調整

- ●定期的に点火プラグを点検して、電極に付着した汚れをブラシなどで落として下さい。
- ●点火プラグはエアクリーナーカバーを外してから、ゴム製のプラグカバーを外すと、あとは簡単にプラグレンチで回して取り外すことができます。

＊プラグレンチは確実にプラグに合わせてから回してゆるめて下さい。
取付の際も、始めは手で回せるところまで回して締付け、残りをプラグレンチを確実にあてがってから回して、締付けて下さい。



●電極間隔は、0.6~0.7㎜が適正です。
交換用プラグ：NGK BPM7A



●その他

●シリンダーフィンなどに付いたゴミや粉塵は放っておくとエンジン過熱の原因となります。
使用後はエアダスタなどを使ってシリンダーフィンや内部に付いたゴミや粉塵を吹き飛ばし、効率のよい冷却が行われるように清掃をして下さい。

■保管

長期間使用しないで保管される時は、錆や腐蝕防止のためつぎの整備を行ってから保管して下さい。

●燃料の抜き取り
1.燃料タンクから燃料を抜き取り、タンク内を空にする。
2.エンジンをかけて、自然にエンジンが停止するまでアイドリング状態で低速運転をする。

●Vベルトの張りをゆるめる。

●カッタブレードは外して別のところで保管する。
レジノイドブレードは湿気の無いところで横積みにして保管して下さい。
なお、保管後1年以上経過したブレードは、変形や強度低下の恐れがあり危険ですから使用しないで下さい。

●保管場所は、湿気が少なく、ホコリがかかりにくい屋内で、直射日光が当たらない風通しの良いところで保管して下さい。
また、落下などの恐れの無い安定した棚などで保管して下さい。

この製品は、一貫した品質管理のもとに組立てられ、厳密な検査に合格した製品です。万一の故障の場合、その他取扱上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービパワーツール取扱販売店もしくは最寄りのリョービ販売㈱営業所にお問い合わせ下さい。

発売元
リョービ販売株式会社　リョービ株式会社

2895-93110　407R/C500